



農業振興策と地産地消モデルタウン構想について伺う

循環センター二期事業にあわせ地域農業の活性化を図る

問

国、県の補助事業
を活用した農業振
興と町単独事業として「地
産地消モデルタウン構想」
の具体的な方策について
伺う。

町長

農業の振興について
は、農業は町の基幹産業であ
り、その健全な発展は一人の
農業者のみならず、町民生活
全体の安定向上の基礎であり、
その振興は町政の重要な課
題である。

本町においては、本年2月
に、JA福岡大城第2次農業
振興計画（平成21年度から平
成25年度）の策定がなされた
が、基本計画で謳ってある「①
人づくり、組織づくり②産地
づくり③食育、環境づくり」を、
しっかりとJAと連携、協力
しながら取り組むことによ
って、農家の所得確保、経営
安定に努めていきたいと考
えているが、その一つが今回
の「地産地消モデルタウン構
想」である。

この構想は、おおき循環セ
ンター二期事業で整備する
農産物直売所や地産地消レ

問

ストランの整備に併せて地
域農業の活性化を図るため
のものである。

手法として、農地保有合理
化事業を活用しながら、周辺
農地を集約し、特別栽培米を
はじめとして、施設野菜や露
地野菜作付を推進し、地産地
消を進めることで生産者で
ある農家や消費者である町
民がより豊かさを感じるこ
とができるものにしていき
たい。

問

少量多品目野菜、
施設野菜、特別栽培
米等の生産計画について
伺う。

産業振興課長

くるるん
周辺の中島、横溝本村、横溝
町の3集落にまたがる15
haに水稲・麦・菜種等を
2/3程度、露地野菜・施設
野菜を1/3程度の作付を
計画しており、JAが行う農
地保有合理化事業により、生
産される作目毎にそれぞれ
が一定のまとまりをもった
形で計画的に生産されるよ
う推進している。



露地野菜

施設園芸については、農産
物直売所に欠かせない作目
であるトマト、キュウリ等を
考えており、設備投資に多額
の資金を要するため、法人に
よる経営が最良であると考え
えられるため、地域の農業者
が法人に参加されればと考
えている。

特別栽培米については、「合
鴨米」の生産を考えている。
栽培技術の指導については、
現在JAにおいて、営農指導
員の雇用が予定されており、
普及センターあるいは地元
合鴨農家との連携により積
極的に技術指導がなされる
ものと考えている。

問

くるるん周辺集
落に対する協力要
請について伺う。

産業振興課長

昨年12月
に地元代表者等の説明会を
開催し、1月になって各集落
ごとに農家の方を対象に説
明会を開催し、協力をお願い
したところである。引き続き
2月から3月にかけて、各農
家の意向調査を行いながら、
協力要請をしている。

しかし、本町は、園芸作目
としていちご、アスパラがあ
るが、これまで露地野菜の栽
培経験がなく、その推進には
苦慮しており、今後工夫をし
ながら、進めていくことが必
要である。

問

町の財政支援計
画について伺う。

産業振興課長

これまで
生産調整を実施された方に
対し、助成金をお渡しする産
地づくり交付金という制度
があるが、平成21年度からは、
名称を変更し産地確立交付
金となり、野菜の団地化につ
いても、麦大豆による団地化